



NPO 法人ライフスキル研究所  
<http://lifskill-npo.org/>  
<http://lifskill.blog.so-net.ne.jp/>

# Art for Life

ライフスキル研究所だより Vol.41



幼少期の「アート・トラウマ」をもつ人は多いのではないのでしょうか。一生懸命考えて引いた線が無神経に直された、ワクワクしながら描いた空や太陽を「そんな色じゃない」と一蹴された…やがてアートから遠ざかり、コンプレックスだけが残る…(涙)。けれど、出会い方によっては生涯を通じてアートを愛し、アートに親しむ心を育むこともできるのです。今回は、アートと子どものちよつとイイ関係について、イギリスからのレポートをお届けします。

## アートと子どもの幸福な関係

イギリス発

## ほめて育む“アート力”

小野 まり(イギリス在住)

### ■アート・ラバーに囲まれて育つ子供たち

「アート・ラバー」、日本では聞きなれない言葉ですが、ここイギリスではいわゆる「アート(芸術・美術)を愛する人々」という意味をこめてよく使われる言葉です。「イギリスはアート・ラバーの多い国だから…」と会話のなかにもよく登場します。絵を描くことが好きな人、手作りの陶芸を楽しんでいる人、木工、編み物、染色、ジュエリー作りと、趣味を超えてプロ・アマ問わず、「自分はアーティスト」と称している人が実にたくさんいます。それはなぜか…。

当時7才になったばかりの息子を伴い、家族でイギリスへ移住してきた私は、ここ10年余りの息子の学校生活を通じ、やはり幼少期の頃からの「アート教育」に大きな要因があるのではないかと感じています。「教育」という言葉をつけてしまうと、なんだかとても肩に力が入ってしまうようですが、親も祖父母もまわりの大人たちみんながアート好きであれば、それが自然と日常の生活のなかで教育となって子供たちのなかに浸透していくのだと思います。そして、イギリスにおける「アート」とは、美術での自己表現に限らず、音楽や演劇も含めて「アート」と称されています。身体を使う音楽(演奏)や演劇(演技)は「パフォーマンス・アート」、絵画や工芸などは「ビジュアル・アート」です。いずれも人間の情操教育として欠かせないものとして、イギリスでは中等教育前半(14歳前後)まで必須科目とな

っています。

では、さっそく教育現場における「ビジュアル・アート教育」についてご紹介していきます。

### ■褒められることで生まれるアート力

イギリスの義務教育は5歳から始まります。新学年の始まりが9月なので、9月から翌年の8月末までの間に5歳になる子供たちは一斉に「レセプション」と呼ばれる学級に秋から参加し、小学校での集団生活が始まるわけです。ですので、ほとんどの子供たちは4歳のうちから小学校へ通い出すことになります。

就学前の子供たちは、一般的には2歳頃から地元公民館などの一部を利用しながら、主に子供たちの保護者によって運営される「プレイグループ」に参加します。毎日通う子もいれば、週に2～3回など、その家庭によってまちまちです。義務教育の就学開始年齢が早いせいか、日本でいう保育園や幼稚園などの教育施設はごく一部、私立の付属機関になり国民全体からみても、その利用は全体の数%にすぎないと言われています。

「え～、じゃあ共稼ぎの家庭はどうなるのお～？」と日本なら大きな疑問が浮かぶところですが、育児休業制度や「子育ては夫婦でするもの」という認識が定着しており、さらに同居こそしていないものの、イギリスの場合は2世代が同じ町やさほど離れていない距離に暮らしていることが多く、リタイアした祖父母が日中や休日に孫を預かることも一般的に行われてい

ます。もちろん、有料の「ディ・ナーサリー」と呼ばれる保育園のような施設もあり、みなさんが「ピーターパン」や「メリーポピンズ」などの物語でよくご存知の「ナニー」(住込みや通いの乳母)も健在です。そして、幼児期は主に家庭を中心にお絵描きや、幼児玩具などで美術的素養が養われていくようです。

そして、日本との大きな違いは、大概の教育機関、ここではプレイグループや小学校を示しますが、日本のように同一の道具でみんなが同時に取り組む…という、日本で一般的に想像できる授業形態がとても少ないのです。では、どうやってアート教育が行われているのか？まず、イギリスでは小学校の間はほぼ手ぶらで登校します。鉛筆やノート、日本の小学生なら誰でも持っている水彩道具などは持っていません。教科書もありません。美術を含めた授業はすべて、学校にある筆記道具、クレヨン、フェルトペン、色紙、そしてわざわざにある水彩絵の具やポスターカラーなどを用いて行われます。先生から与えられたテーマ、例えば「春のガーデン」を題材に、それぞれの子供たちが、学校にあるお好みの画材を選んで思い思いに創作活動に取り組めます。

そして、さらに日本との大きな違いは、イギリスの小学校には日本の小学校にみられる段階評価による「通信簿」がありません。課題ごとの作品評価も、段階別の評価は

なく、ほとんどが日本人からみれば「褒めちぎり」の褒め言葉だけです。このような授業で子供たちは一体何をやるのか…。息子を通して感じたこと、それは「自信」です。小さい時に、アートを通じ大人に褒められて得た「自信」はその後も、大げさに言えば「生きる自信」につながり、やがて人生の山を越え、ゆとりがでてくる頃から、再び自ら創作活動を始めたリコレクターになったりと、まさに「アート・ラバー」が多いのは、この幼少期の経験がイギリス人の人生のなかでかなりの位置を占めているからではないかと、かなり胆略的な解釈ですが、そのように感じています。

### ■日本とイギリスのアート教育の狭間で

のびのびと好きな画材を使って行うお絵描きや工作は楽しいものです。イギリスの子供たちは、上手下手に限らず、どの子も創作活動は大好きな子がほとんどです。他方、日本で教育を受け美術系大学に進み、デザインの仕事にも従事したことのある私自身からみれば、イギリスの幼児期から小学

生、さらに義務教育の間は「水彩画の写生」などに代表される、日本では誰もが受ける技術的なアート教育はほとんど行われていません。美術の時間は「技術」よりも「想像力」や「感性」を磨くものと位置づけられているようです。

果たして日本と英国、どちらの教育方法が正解かはまだ判断できませんが、イギリスの自由でのびのびとした感性の磨き方は、アートそのものに対する興味や思いを国民全体に広く浸透させていることだけは確かなようです。その証拠に、イギリスにはどんな小さな町にも、「パフォーミング・アート」を楽しめる劇場や演奏会場があり、「ビジュアル・アート」を楽しめるミュージアムやギャラリー、また地元アーティストの作品を展示販売しているクラフトセンターも必ずといっていいほどあります。また、それらの施設で企画されるワークショップなどの活動もあらゆる地域でさかんに行われています。「日本にくらべ、“アート”の敷居のなんと低いことか！」いい意味で、そう強く感じられるのがここのイギリスです。

●小野まり●NPO法人ナショナル・トラストサポートセンター代表・英国事務局長。02年より英コッツウォルズ郊外在住。著書『英国ナショナル・トラスト紀行』『英国コッツウォルズ～憧れのカントリーサイドのすべて～』『英国湖水地方～ナショナル・トラストの聖地を訪ねる～』(共に河出書房新社)他。ロンドンの出版社より *The Simple Art of Japanese Papercrafts, Origami for Children, Fly Origami Fly!* など折り紙本多数出版。夫は画家の小野琢正(たくまさ)氏。\*ホームページ\*<http://www.asahi-net.or.jp/~hh5y-szk/ono/ono0.htm>

## 活・動・色・彩～かつどういろいろ～

- ★二口圭子新作銅版画展★4月7(木)～19(火)@ギャラリーアライ(阪神「甲子園」より北へ徒歩1分)★当NPO監事二口さんの個展。ほのぼの猫ワールドが広がります。\*4/13 休廊
- アートで心の健康をまもる講習会●2月23日●池田市幼・小教員対象アート研修の最終回。教員のリフレッシュや自己洞察、自己発見に力点を置いたワークを行いました。
- 箕面学園福祉保育専門学校「公開介護講座」●3月8日●介護福祉科の方々を対象としたアートセラピー体験ワークショップ(主催:箕面学園福祉保育専門学校)
- シニアCITYカレッジ「美術の見方」●3月23日●西洋近代絵画の重要なジャンルであり、今も多くの人に愛される風景画の歴史や鑑賞のポイントをレクチャー(主催:NPO 法人シニア自然大学校)

### 子どもにとっての大震災—絵に表れるショック体験と退行現象—

子どもが受けた被害の記憶は、言葉で語られることなく心の奥に潜り込み、子どもを無気力にすします。私は阪神淡路大震災の直後、臨床心理士たちとともに避難所の学校に赴き、子どもたちにクレヨンと画用紙で絵遊びの機会を提供しました。エネルギーのある子は校庭で遊んでいましたが、親の傍でうずくまっている子も多く、そうした子どもたちに画用紙を見せると、近寄ってきてぼつぼつしゃべりながら描き始めました。彼らの絵には燃える家、走る救急車、血、ウンチ、哺乳瓶など、まさにあの場あの時の経験や退行(赤ちゃん返り)への欲求が鮮明に表れていました。ある子どもは、非常に興奮状態で数枚の絵を一気に描き上げ、1時間も語り続けたあと平静を取り戻し、親のところへ帰っていきました。「怖さを吐き出す」という言葉がぴったりの光景で、絵の中に怖さを塗り込め、無意識に早く忘れようとしているかのようでした。あまりに大きなショックを体験した子どもは一時的に退行の様相を見せることがあります。おねしょをしたり、親の傍から離れられなくなったり、幼児のなぐりがきに逆戻りしたり…。絵にはそうしたサインがよく表れます。被災した子どもの絵にウンチやおっぱいが表れたり、絵が年齢不相応に下手になっても、周囲の大人は過度に心配せず、ショックや恐怖心を共有するような接し方を心がけてみてください。(小村チエ子)



■発行:NPO 法人ライフスキル研究所 ■編集:小村みち  
 〒563-0017 大阪府池田市伏尾台 1-32-17  
 TEL072-750-2797 FAX072-750-2805 E-Mail [info@lifeskill-npo.org](mailto:info@lifeskill-npo.org)  
 URL <http://lifeskill-npo.org/> Blog <http://lifeskill.blog.so-net.ne.jp/>



J. Pollock

この度の東日本大震災で突如言い知れぬ痛苦に見舞われた皆様にご心よりお見舞い申し上げます。日本中、世界中の多くの人々が心を痛めつつも復興に乗り出しています。皆様に必要な支援が行き届きますよう祈念いたします。

★会員の皆様へ★  
 義援金ご協力をお願い  
 既にお知らせしましたとおり、現在当研究所では義援金を募っています。ご協力いただける方は下記にお振り込みください。

■池田泉州 BK 池田駅前支店 普通 6013901  
 ■ゆうちょ 14060-27579361  
 トクティヒエイリカツドウホウジン  
 ライフスキルケンキュウショ  
 受付は4/10まで(延長します)。この日までの入金はすべて寄付金として扱い、全額を「東日本大震災現地NPO応援基金」(日本NPOセンター運営)に寄付します。  
 ※同基金の詳細は下記をご覧ください。  
<http://www.jnpoc.ne.jp/?p=964>

5/22 スタート!  
 2011 年度メンバー募集!  
 ライフスキル・アート研究会  
 日時(予定):5/22、7/24、9/25、11/27、1/29(日)13-16 時  
 会員 1,000 円/一般 2,000 円  
 ★お申込・問合せは HP・メールにて

アートスペース子どもべや  
 生徒募集中  
 池田教室:第1・3(火)16:00-17:15  
 @池田コミュニティセンター  
 室町幼稚園教室:第1・3(火)  
 16:10-15:30@室町幼稚園  
 (同園の年中・年長児対象)  
 ★お申込・問合せは HP・TEL にて

研修・講演・ワークショップ講師  
 派遣します。ご依頼・お問合せは事務局まで。